

港区 地域こぞって子育て かわら版

みんなで聞こう・いっしょに話そう みんなで なかよく とりもとう！

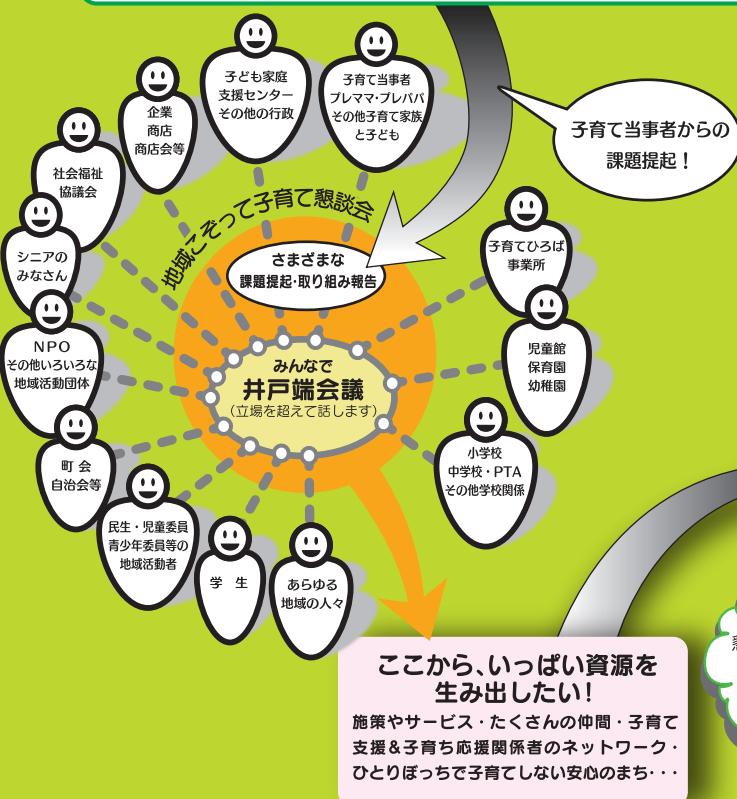


港区地域こぞって子育て懇談会は、こんな場です！

地域の子育て・子育ち環境向上のため、子育て中の人たちと、地域で応援するよ～という多様な人たちが、共に集う場です。

地域こぞって子育て懇談会実行委員会

子育て中のママ・パパ、子育て支援関係団体、学生、港区立子ども家庭支援センター
明治学院大学社会学部付属研究所ソーシャルワーカー、その他



これまでの懇談会のテーマ

- 2005 年度（明治学院大学社会学部付属研究所市民講座として実施）
都心で子育てまつ最中！ママ・パパからの発信～子育てをささえる地域創りとは～
 - 2006 年度 みんなで聞こう・いっしょに話そう「子育てをささえる地域創りとは」
 - 2007 年度 「急募！子育てにやさしい店と街」
 - 2008 年度 「つながりの輪をひろげたいなあ」
 - 2009 年度 「まちに顔見知りがいると安心できるね」
 - 2010 年度 「まちの中に、あなたや子どもの居場所ありますか？」
 - 2011 年度 「みんなで始めたいね となりの人とのつながりづくり」
 - 2012 年度 「つながることで生まれるもの」（6つの分科会）
 - 2013 年度 「みんなでなかよくとりもとう」（6つの分科会）
 - ①多世代・地域・つながり～子ども時代を遊びきる～
 - ②ゲーム・スマホ etc. のトラブル急増中！どうする？親は？子どもは？
 - ～現役中高生といっしょに考えよう！～
 - ③家族が増えるとどう変わる？ママ・パパの期待と不安～家族が楽しく生きるには～
 - ④どの子も過ごしやすい地域づくり～子どもの発達の課題に視点をおいて～
 - ⑤大学生の放課 GO ! ? ～地域の子育て、大学生にできること～
 - ⑥子育て・家庭・地域 etc. な～んでもしゃべり場

■ 2014 年度の井戸端会議のテーマ

- ① 多世代・地域・つながり** ~子育ての今と昔~
 - ② 20代・30代の考える家族や子育て**
 - ③ 子どもの貧困** ~港区の実態と課題~
 - ④ 家庭教育を話そう** ~思春期のイロイロ~
 - ⑤ どの子もすごしやすい地域づくり**
~発達の課題に視点をおいて~
 - ⑥ 子育て・家庭・地域 etc.** な~んでもしゃべり場

2014年度 港区地域こぞって子

井戸端会議①

多世代・地域・つながり

～子育ての今と昔～



子育ての今と昔って何が違うの？人とつながりながら子育てするのは今も昔も同じ。この地域で、いっしょに子どもを見守る社会について話し合いました。

話題提供者：林加代子さん（元港区立保育園園長）
星野裕子さん（高輪児童館館長／実行委員）

主な話題

1960～70年代→異年齢の近所の子どもたちが習い事もなく外遊び。80年代→共働き家庭が増え学童クラブが必要に。習い事にいく子どもは増えたが異年齢での外遊び継続。乳幼児親子集える場も必要に。90年代以降→学校週休2日になり平日の遊び時間減少。ゲーム機登場で集団・外遊びから個人・室内遊びへ変化。親の勤務時間と学童クラブの時間帯が合致しない事態も出現。

子どもたちの遊ぶ時間は減少したが、子どもの「遊びたい」想いは昔も今も変わっていません。だが親の要望は変化しています。子どもたちは、塾等で過ごす時間が長くなり、保護者は、地域のつながりが少なくなりました。「昔」は、いろいろな人の手を借りて子育てできたのに、「今」は、狭まった中での子育てに。子どもたちは、どんな状況でも育つだろうが、勉強に駆り立てられ、よい子でいることがよいとの価値観にとらわれるのはどうか。今必要なことは、地域と保護者をとりもつ活動、お互いが話せる場を作ること。子育ては、多世代間で話をして協力する必要があります。子育て・子育ちにおいて、「多世代・地域・つながり」はキーワード！

井戸端会議②

20代・30代の考える家族や子育て



結婚や子育てが、すぐそこにある世代はどう考え、どういう思いで過ごしているのか。みなさんと共有する場をつくりました。

話題提供者：未婚・既婚・子育て中、それぞれの立場から（30代の元学生実行委員）

主な話題

大学生から子育てに一段落した世代まで、話題提供者3名（30代の、未婚女性・既婚男性・既婚子ども1人男性）の実体験を共有した上、

- ・結婚についての考え方や意識（例：結婚意識してつきあわない、いや考える、..）
- ・子どもを育てるということ（例：しっかりしていないのに自分に育てられるか不安）
- ・結婚後の子育てと仕事の両立（例：結婚しても仕事を続けたい。共働き夫婦には両親の存在大）
- ・結婚と経済事情（例：豊かでないと結婚できない？）や将来のこと（例：世代として将来の安泰感じたことがない）等について話しました。

20代・30代未婚者は、結婚や子育てに対する不安を話し、既婚者が、実際の体験を交えて答えました。「不安」を語った20代・30代は、「希望がもてた」「自由に生きたい」「結婚したい」「悩んでいることも大きな問題ではないことに気づけた」等と語りました。様々な立場や異なる年齢の参加者が、正直な想いを出し合うことで新しい視点や価値観の発見にもつながりました。

井戸端会議③

子どもの貧困

～港区の実態と課題～



6人に1人、日本で貧困とされる子どもの割合です。貧困の経済面だけでなく、精神的な貧しさも射程に入れ、その解決の糸口について、大学生の提案をふまえ話し合いました。

主な話題

港区には、子ども、また、子育て家庭の「貧困」があります。それは、経済的・精神的貧困に及んでおり、深刻な事態となっています。特に、ひとり親世帯や生活保護・就学援助受給者への支援は必要であると考えられます。また、世帯収入は高くても、家族間のコミュニケーションが希薄という意味などで、精神的貧困に陥っている子どもへの支援も必要です。親が生活水準を上げようとするばかりに、子どもが犠牲になってはいないでしょうか？子どもを育てたいまちから、子どもが育ちやすいまちへ。今、「貧困」状態にある子どもたちへの支援が求められています。



2015年度への展望

港区地域こぞって子育て懇談会

次に取り組みたい テーマあれこれ

・井戸端会議②「20代・30代の考える家族や子育て」は、子育て予備軍が前向きになる場となった。だが、現実はもっと多様かもしれない。子育て限定期ではない、将来を担う世代のリアルな懇談をしたいが、テーマが広すぎるのだろうか。

・井戸端会議③「子どもの貧困」で示された解決への糸口から、次は「子どもの居場所」「子どもの孤立」について考え話を場を企画したい。

・井戸端会議④「な~んでもしゃべり場」では、「どこまでがしつけて、どこから虐待だろうか」との話題があった。子どもへの虐待防止に関し、市民として考える場をつくれるのだろうか。

いっしょに 企画したい

・区内で、シニア世代により子どもたちを対象とする活動が行われている。そうした活動を紹介したいし、シニア世代からの課題提起を基にいっしょに企画したい。

・次年度新たに応募してくれる実行委員たちが、これまでのテーマにこだわらずに企画に入れるよう配慮しよう。

もっと話したい もっと参加 呼びかけたい

育て懇談会

6つの井戸端会議より

井戸端会議④

家庭教育を話そう

～思春期のイロイロ～



多感な思春期の子どもたちに、親や周りの大人们はどう向きあえばよいか、そのヒントをいっしょに見つけよう話し合いました。

主な話題

思春期の子どもたちを理解したく、日常の喜怒哀楽を問う事前アンケートを実施しました。

小中高生は、友人や部活を含めた学校に関するできごとに大きく左右される。特に、嬉しい・楽しいことは、友人との関わりや好きなタレント・趣味に関する事。大人に比べ、悲しかったこと・起こっていることが少なく、日々明るく前向きな気持ちで生活している。大学生は、世界が拡がり、多様なできごとに心が動かされると共に、自己の内面との葛藤が起きている。思春期の子どもの心は、年代と共に成長していく(以上、事前アンケートの考察より)。

大人が思う以上に、子どもたちは大人の行動や社会のあり様を冷静に見て、自分の行いを判断しているようです。ただ、大人に干渉されることを疎むのは、いつの時代も同じです。思春期は、大人们の「待つ」姿勢と「見守る」覚悟が問われる時期なのかもしれません。



井戸端会議⑤

どの子もすこしやすい地域づくり

～発達の課題に視点をおいて～



発達に課題のある子どももその家族も孤立しないで過ごせ、どの子もその子らしく輝ける地域づくりについて、語り合いました。
話題提供者：下村博史さん(3人の男の子のお父さん/実行委員)

主な話題

発達障害のある子どものお父さんの子育て体験と「父親として、してきたこと」を共有した上、①～③について話しました。

①親が子どもの得意なことや苦手なことを理解する。

②周囲の理解や個別対応について。

③居場所づくりについて。

発達障害を説明したら適切な支援が受けられる社会にはまだなっていない。周囲に伝えて受けとめ方は様々で、良好な関係が構築される場合と差別を受ける場合と両方あるという問題提起もありました。子ども同士は、支え合う、認め合う力を本来もっているので、大人が関与しすぎないほうがよい。子どもの長所や得意分野が発揮できる、安心できる居場所を用意するためには、親も支援者も様々な立場の周囲の人々の協力を得ながら、創りあげていく必要があります。障害ではなく、その子自身を見ることや、「その子にとっての人生」の視点をもつことが大切。みんなが違うからこそ出会えることが楽しくなる、そんな一人ひとりが生きやすい地域づくりをめざしましょう！

井戸端会議⑥

子育て・家庭・地域 etc.

な～んでもしゃべり場



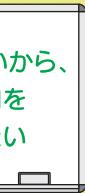
子育て・家庭・仕事・活動のこと等日頃の思いや悩みを話し、共有・共感し合いながら、地域の子育て環境向上のため互いの理解を深めました。

主な話題

「今思っていること」をワールドカフェ方式の対話の中で自由に語り、子どものしつけや親自身の生き方等が話題となりました。テーマを設けない井戸端会議ですが、今回は「子どものしつけ」が話題の中心となりました。子どもをつい叩いてしまうことがあるが、どこまでが「しつけ」で、どこからが虐待になるのだろう。自分の親の厳しさに今は感謝するという方。善悪は叩かずとも教えられるので、話すことの放棄は親の怠慢、という意見もありました。時代や環境により考え方は違うが、「子どもに、きちんと教育することや愛情もって子どもに接することが重要」との認識が深まりました。家庭教育の重要性や、子どもの教育の最終目的は自立であり、そのためには親が自立することとの指摘も残されました。



「来年こんなふうにしたい！」



・中高生の参加があり、大人と中高生が同じテーブルで話す貴重な機会になった。中高生との対話の機会を続けたいので、参加を促すために関係機関へ働きかけ協力を求めたい。
・上記の場で、大人と中高生の間をつなぐ世代は大学生。大学生にもっと参加を呼びかけよう。

「みんなで聞こう・
いっしょに話そう」
の足元を
今一度見直したい

・分科会方式の懇談会を3回実施した。テーマが専門分化しすぎていてないだろうか。「みんなで聞こう・いっしょに話そう」の足元を見直し、誰でも気軽に参加できる対話の場づくりを参考しよう。
・おひらきの全体会情報共有と交流のために復活したい。

「ミニこぞって」
続けたい

・2014年度初めて行った「ミニこぞって」。1月の懇談会に来場できなかつた方々にも参加を呼びかけることができ、対話の場が増えた。
・2014年度の同じテーマの懇談会=「ミニこぞって」を継続したい。

『地域こぞってネットワーク会議』 2015年6月19日(金)に開催！

毎年6月に開催しています。子育て支援・子ども応援の活動者・実践者が集います。関心ある方なら、どなたでも参加できます。

子育てや子どもたちを応援する、同じ目標に向かう関係機関／団体同士が、直接顔を合わせ、互いの取り組みを知り、関係を築き、共働の可能性を拓げることを目的としています。



『港区地域こぞって子育て懇談会』2016年1月30日(土)に開催予定

10月みなと区民まつりにて予告チラシ配布予定。12月中旬懇談会チラシ配布／ポスター掲示開始予定。開催情報等は、以下の港区立子ども家庭支援センター・明治学院大学社会学部付属研究所にお問い合わせください。



「みなと子育てメーリングリスト」をもっと活用しよう！

地域の中のつながりをつづけよう～地域の中の子育て情報を共有しよう～という、情報発信用のメーリングリストです。

みなと子育てネット Wa.Wa.WaML 事務局が運営管理しています。港区の事業ではありません。

「子ども」「子育て支援」「親子」「地域」などをキーワードとする情報を交換しましょう！

登録は

minatokosodate@gmail.com

実行委員募集

港区地域こぞって子育て懇談会の企画に参画しませんか？

2015年度の港区地域こぞって子育て懇談会実行委員会は、2015年6月 キックオフです。関心のある方、お気軽にお問い合わせください。

みんなで なかよく とりくもう



●実行委員の応募条件：

- ・港区内の子育て・子育ち環境向上を望む人
 - ・経験不要
 - ・月1回（主に第二土曜日午前の予定）程度の集まりに参加を予定できる人
 - ・活動期間は6月～翌年3月まで（継続大歓迎ですが、単年度の参加ももちろんOK）
 - ・その他面相談
- 応募先：
- 港区地域こぞって子育て懇談会事務局
明治学院大学社会学部付属研究所
ソーシャルワーカー
TEL&FAX：03-5421-5205
Eメール：issw@soc.meijigakuin.ac.jp または、港区立子ども家庭支援センターへ
TEL：03-6400-0090

協力者募集

かわら版配布やポスター掲示

地元のみなさんへの広報のため、「地域こぞって子育てかわら版」配布や開催告知ポスター掲示に協力してくださる、お店や会社、マンションの掲示板等を募集しています。協力いただけるみなさん、以下にご連絡ください。

●連絡先：

港区地域こぞって子育て懇談会事務局
明治学院大学社会学部付属研究所ソーシャルワーカー
TEL&FAX：03-5421-5205
Eメール：issw@soc.meijigakuin.ac.jp

本かわら版に関するお問い合わせは、右記へご連絡ください。

本かわら版は、「2014年度港区地域こぞって子育て懇談会報告書」のダイジェスト版です。報告書をご希望の方も右記へご連絡ください。

港区立子ども家庭支援センター

〒108-8315 港区三田 1-4-10 TEL03-6400-0090

明治学院大学社会学部付属研究所

〒108-8636 港区白金台 1-2-37 TEL&FAX03-5421-5205

Eメール：issw@soc.meijigakuin.ac.jp

刊行物発行番号 26299 -4840